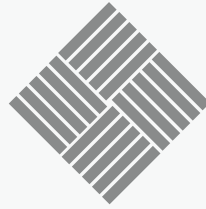


# 組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

5

Number

1

2014年9月25日

## 組紐・組物学会行事（終了分）

2014年	5月10日(金)	10:30～16:00	第1回東京ワークショップ「アンデスの組紐」	青柳淑江
2014年	5月23日(金)	10:00～16:00	第1回京都ワークショップ1「アンデスの組紐」	青柳淑江
2014年	5月24日(土)	10:00～16:30	第1回総会・複合材料ワークショップ・レクチャー	
2014年	5月25日(日)	10:00～16:00	第1回京都ワークショップ2「おもしろい組紐」	古澤陽子
2014年	7月12日(土)	10:30～16:00	第2回東京ワークショップ「おもしろい組紐」	古澤陽子
2014年	8月8日(金)	10:00～16:00	第2回京都ワークショップ「クテ打」	春日弘子・角浦節子
2014年	8月9日(土)	9:00～12:00	第2回京都レクチャー「世界の組紐」	多田牧子
2014年	9月13日(金)	10:00～16:00	第3回東京ワークショップ「固い素材を組む」	岡安康子

## 目次 Contents

### 2 組紐と伝統

小嶋博子・多田牧子・荒川光久・廣澤浩一・渡辺一生

### 6 唐組台について

多田牧子

### 9 組紐・組物学会関連行事予定

## In this issue

**Kumihimo and the Tradition** H. Ojima, M. Tada, M. Arakawa, K. Hirose and I. Watanabe 2

**Karakumidai** M. Tada 6

Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society 9

## 組紐・組物学会ニュースレター

第5巻第1号 2014年9月25日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX : (075)724-7844 E-mail : inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。 <http://www.kumihimo-society.org>

# 組紐と伝統

Kumihimo and the Tradition

小嶋博子・多田牧子・荒川光久・渡辺一生・廣澤浩一



月1回継続的に参加する小学生

もの作りのほとんどの分野で、日本人がひたむきな努力を積み重ねた結果、気づけば世界最高レベルの品質の製品を作るに至ったケースは数多く見られます。慢性的な不況、近隣諸国の圧力や大規模な自然災害等がもたらす生活や生命への不安の中で、我々の精神的支柱のひとつとなっているが日本のもの作りの「伝統」ではないでしょうか。そこで伝統の組紐に関わる本学会理事5名に、それぞれの立場から、組紐と伝統について聞いてみました。

## 子どもたちに伝える

小嶋 博子 Hiroko Ojima

「組紐」と出合って40年以上経ちますが、多くの時間は工芸展へ出品するための作品創りが中心でしたので、どちらかという組紐の新しい表現方法を求めているように思います。その後、市民学校の講師として指導者の立場になりましたが、高知では指導者が少なく困ったことや疑問に思うことがあっても相談できる環境にはありませんでした。

今、組紐・組物学会に参加し組紐を学ぶ多くの人達と交流できるようになったことは大きな喜びです。組

紐を長く学んでいると多くの疑問や不安が生じますが、相談できる仲間がいることは大変心強いと思います。さらに叶うならば、組紐を組む人・指導する人・学ぶ人・流通に携わる人・紐を使う人達で大きい交流の輪ができればもっと楽しいなど考えることもあります。

伝統工芸・組紐に携わる私達は、正しい技術（正しい技術の意味は大変難しいですが・・・）を正しく次の人に引き継ぐと共に新しい事にも挑戦する気持ちをもつことも大切ではないかと考えています。かつて指導を受けた工芸の師より「今、伝統工芸といわれているものもそれが最初に創られた時は最新の技術だったと思われる。長い年月に耐えられる技術と感性をもったものだけが残って、いつか伝統工芸といわれるようになる」と伺いました。

今、私達高知の会員は、若い人達に組紐を知って欲しいとの思いから小学生に組紐を体験してもらう機会をつくるよう努めています。一日体験会は時々開催しますが、たまに「去年も来ていたよ」と聞いたときは大変嬉しく思います。現在5人の小学生が月一度ですが継続して教室へ来てくれています。この中から将来一人でもいいので何らかの形で組紐に関わる人に育って欲しいと願いながら、これまでとは違った意味での教えることの楽しさを感じています。



2014年4月の第4回組紐・組物展 高知市文化プラザ7階市民ギャラリー



2009年米国 Coupperville のワークショップ

## 伝統は創ることができる

多田牧子 Makiko Tada

組紐は、日本の「伝統工芸」と言われています。日本では「伝統工芸」や「組紐」についてあまり説明する必要はありませんが、外国では説明する必要があります。それがどういうものかを良く聞かれるからです。自分なりに答えて来ていましたが、伝統とは何か、あらためて調べてみました。大辞林によると「ある集団・社会において、歴史的に形成・蓄積され、世代をこえて受け継がれた精神的・文化的遺産や慣習」とあります。今日、私達が伝統文化、伝統工芸と呼ぶものは、長い歴史の中で形成され、特に重んじられて伝承されてきたものだと思います。美術品・工芸品に限って言うと、美術的価値や工芸品的価値を持ち、その技法は匠の技として継承・伝承されてきたものです。これからもその価値と歴史的な意義を持ち、継承・伝承されていくものであると思います。しかし、その伝統はそれが初めて作られた時点では伝統ではないわけで、たいへん新しいものであったと考えられます。そこで「伝統は創ることができる！」のです。「伝統は新しくなることができる！」のです。



1986年9月英国での最初のワークショップ

私は、1984年から外国の方に組紐を教える事を始めました。最初は日本にチャールズ財団の援助を受けて組紐の勉強にいらしたアンデス組紐研究家の英国のロドリック・オーエンさんです。私の自宅にホームステイして、2ヶ月間ほとんど毎日、朝から晩まで、丸台、角台、綾竹台、高台としっかり勉強なさいました。私が教室などで教えるときは常についていらっしやいました。日本の伝統工芸「組紐」を学ぶためです。

1986年にJapan Foundationから派遣され、英国のあちこちで、ワークショップを数回、作品展を2回、レクチャーを3回ほどしたのを始まりに、米国、オーストラリア、ニュージーランド、ドイツ等でのワークショップで教えるようになりました。

外国の方々は、「伝統」にたいへんこだわります。したがって、歴史を知りたがる方が多いので、上記のような質問が出るわけです。そこで、ワークショップの合間になるべく組紐の歴史などのスライドショーをいたします。

外国でのワークショップは2～7日間くらいで終わるので、日本での組紐の勉強とまるで違います。私のワークショップはほとんど「オール・イン・ワン組紐クラス」にしている、いろいろな人がいろいろなテクニックを学べるようにしています。その方がいろいろな組紐を皆さんが見ることができて良いと思うからです。そして、ある程度組めるようになった人には「自分だけの組み方を創りましょう」というテーマを出します。これは日本でのワークショップでもそうなのですが、皆さん「えっ、自分で創っていいの？組紐って伝承のものだし、教えてもらうものじゃないの？」とおっしゃるのです。そこで先に書きました「伝統は創ることができる！」「伝統は新しくなることができる！」お話をします。伝統には新しいものも出てこなければ、長くは続かないと私は思っています。もちろん、昔からの伝承されたものには敬意を表しながら。



碓氷製糸場

## 生糸・組台・組紐教室はいま

荒川光久 Mitsuhisa Arakawa

今年は富岡製糸場の世界遺産登録もあり、ニュースや新聞などで、製糸機械、煮繭機、繰糸機といった製糸場で使われる機械や、実際に製糸している映像や写真を見る機会が多かったと思います。

しかし、現在国内で稼働している器械製糸工場と呼べるものは、群馬県安中市の碓氷製糸場と山形県酒田市の松岡製糸場の2か所のみとなりました。くみひもに使用される糸の主な材料である生糸の国内生産量は年々少なくなり、かつて1950年代には世界の約60%を占めていました。その後、化学繊維の普及や、ファッションの変化により衰退が進み、バブル期には一時持ち直したものの、1987年1月の富岡製糸場の閉鎖を皮切りに次々と製糸場は閉鎖していきます。2010年には世界の生産量118,211トンに対しわずか53トン(0.045%)になり、その内群馬県が約60%を占めています。

現在では、最大の生産国は中国で95,778トン(81%)以下、インドが16,360トン(13.8%)、ベトナムが2,250トン(1.9%)、ウズベキスタンが2,100トン(1.77%)、ブラジルが770トン(0.65%)、タイが665t(0.56%)となっています。

ただ日本は世界でも有数の生糸、絹製品の消費国であり、2010年の輸入量は生糸732トン、絹糸978トン、絹織物944トン、二次製品(洋装類が8割を占める)は7,980トンに及んでいます。主な輸入先は中国で、生糸(68.9%)、絹糸(59.3%)、絹織物(79.9%)となっています。

組台に関しては、専門の業者が確認できず、全国展開している学院や教室が、木工所等に委託生産している

のが現状のようです。

昭和40年代中頃から始まった組紐教室は50年代に入り、折からのバブル景気と重なり全国に広がりを見せました。近年では着物離れや手作りブームの衰退により、くみひも教室の数は減少しています。又、指導者の高齢化が進み、若い人への技術の伝承が急務となってきています。最近ではアクセサリ作りから入門といった教室や、アートを創る際の技術として組紐を教えている方もおられますが、組紐の伝統を絶やさない様に、さらなる新しい用途の開拓が必要であると考えます。

## 伝統の組紐産業の今後の展開と技術の伝承について

廣澤浩一 Koichi Hirose

皆様が取り組まれている組紐は、ご承知のとおり国指定の工艺品として伝統技術が伝えられています。その経緯は、日本の誇る伝統文化の中で、暮らしと関わりの深い伝統工芸品の素晴らしい特質を守りながら、新しい時代に相応しいものに育てていくため、昭和49年5月に「伝統的工艺品産業の振興に関する法律」が制定されました。伊賀組紐は昭和51年に認定を受け、日本の伝統工芸産地として仲間入りさせて頂きました。以後、技術・技法の継承はもとより、時代に合った製品開発を手がけてまいり現在に至っています。

ところが、経済環境の変化は、大量生産・大量消費という時代を創り、高額な伝産品には見向きもせず安価な物を求める時代に突入してまいりました。そのため、組紐の技術者も増えず減少の一途を辿っています。また、利益の追求から安価な製品を求め、この日本の伝統を韓国・中国に求める業者も急増、伝産地として国に守られてきた弱さが浮き彫りになり、衰退の一途



富岡製糸場

産地組合等が実施する検査に合格した伝統的工芸品には、この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている。



を辿り始めました。いま、残すためには後継者を作るのが急務であります。若い人には、職業として生活が適わないため相手にされないのが現状です。

組紐の世界は、帯締めだけでなくいろいろなジャンルに使われています。俳人松尾芭蕉翁の言葉に「不易流行」とあります。長く変わらないものと、新しい物の融合です。我的世界はもちろんのこと、洋装・建築・装飾・用具といろいろな分野で開発が見込まれます。どの分野も、元になるのは技術力です。

これからの技術の伝承を考えると、現在の伊賀組紐技術者は高齢化が進み、近い将来殆ど壊滅に近いと考えられます。私たちの受け継いできた技術・技法をこの国から無くさない道として、趣味として関わっている皆様に託すことも一つと考えています。そのためには趣味の世界からプロの一人者を目指すべく、以前に行いました技術講習会では基本技術に重きをおき技術の向上に努めました。

ことわざで「好きこそ物の上手なれ」とか「道は好むところによって安し」と云われています。生活のためではなく本当にこの仕事が好きなら、とことんチャレンジしてみてください。皆様こそが、これからの日本の伝統を継承する金の卵です。「芸は身を助く」という事もあります。期待しています。



2014年3月伊勢丹新宿店での展示販売会



マリオン・ヴィダル氏デザインの組紐ネックレス

## 帯締めにおける伝統柄と新柄

渡辺一生 Issho Watanabe

帯締めにおいて伝統柄と新柄はどの様に顧客に受け入れられるか、海外も含めた今後の展開について述べます。

帯締めという細長い中で柄を表現するのはむずかしいものですが、その中で柄を考案し組み上げていくのは楽しく大切な作業の一つでもあります。デザイン性においては色、配色も重要ですが組み方の種類や柄出しの良さが両輪となり、愛好家などエンドユーザーに受け入れられると考えております。

また、洋装のように流行はめまぐるしくはありませんが、数年の間に巾や色の濃淡・明暗が変わったり、無地などシンプルな物が流行ったりするようです。流行に敏感に反応し変えるべきもの、変えてはならないものをしっかりと区別してもの創りをする 것도大切です。紋柄や縞、格子のように昔からの古典柄は主にはフォーマル用として現在でも定番ですし、動物の柄や幾何学模様などはカジュアルな帯締めによく用いられます。猫や犬そしてクリスマスの柄など個性的な柄も人気です。

近年和装人口は減少してきましたが、今きものをお召しになる方はこだわりを持っている方が多く、好みもハッキリしている傾向があります。多種多様な好みに対応し、一人ひとりが納得し満足してもらえるもの創りが顧客満足に繋がるものと確信しております。

また、海外にもこの組紐の技術が認められるように微力ながら活動しておりまして、パリのアクセサリデザイナーとのコラボ作品のネックレスはその一例です。

# 唐組台について

Karakumidai

多田牧子 Makiko Tada



図2 木下和子氏の唐組作品

## 概要

唐組台は、図1のように、木釘が植えてある約30～35cm四方の四角い木枠に足が付いた唐組を組むための道具です。一度に組むことができるのは1菱のみですから、この小さい台で幅の広いものも組むことができます。一応平たく軽いおもり玉（平玉またはコマ）を組み糸につけますが、おもりの重さではなく指の力で引き締めて組みます。唐組台は唐組平緒を組むために平安時代に考案されたと考えられます。平緒は太刀を佩（は）く幅約8～10cm、長さ約250cmの帯で、唐組平緒は平安時代の貴族男子五位以上に用いられたものです。図2は、人間国宝深見重助氏の弟子、木下和子氏制作の唐組平緒です。

唐組台は図1のように、手前が低くなるように傾斜しています。台の高さや傾斜の角度は組み手に合わせて組みやすいように決定しますが、だいたい後ろの高さが40～50cm、手前が35～40cmくらいです。昨今は外国で腰かけてできる高いサイズの唐組台もできています。ちなみに深見重助氏の台を模した筆者の唐組台は後ろの高さが50cm、手前が37cmです。木釘は横枠と手前の枠にはそれぞれ27本、向こう側の枠には18本、等間隔に植えてあります。この数も組み手の好みで変えても良いでしょう。木釘の高さは0.8cm、木枠に植えてある木釘は、先端

を丸く削って腕があたっても痛くないようにしたもので、木や竹ひごを用います。木枠の中央より向こう側寄りに2枚の板ではさんで留める糸押さえがあります。唐組台の内側後方には組んだ部分をしまう割り蓋の木箱がついています。図3は唐組台を上から見た所で、中に割り蓋付きの木箱があるのが見えます。唐組平緒は組み上げるのに日数を要するので、組上がり部分を保護するためのものです。台の回りには布で覆いをかけます。これは糸をつけた平玉が絡まないようにするためのものです。平玉は7cmx5cmくらいの厚紙を二つ折りにし、3.5cmx5cmにし、その間に少しサイズを小さくしたブリキの板をはさみます。以前は寛永通宝の1文銭を入れて作ったこともあるそうです。重さは1個5グラム前後です。5円玉か10円玉を入れても良いでしょう。それを和紙でぐるんで、玉糸（根糸とも言う）を付けます。玉糸は60cmくらいの木綿糸を二重にして平玉に結びつけ、輪が巻き終わりに来るように巻き付けます。平玉は使用する糸の数だけ必要です。平玉の代わりに現在はEZボビンを使う事も多くなっています。また、唐組台ではアンデスの平緒を組むことができます。

## 唐組台（唐組）の歴史

唐組台はいつ頃から使われ始めたかは判然としていません。以下は唐組と平緒について現在わかっていることです。

唐組の最古の遺品は、飛鳥時代に建立された法隆寺に残された金銅装唐組垂飾で、飛鳥～奈良時代のものとされています。大陸的な色彩の大きい菱を二つ並べたもので、大陸から渡って来たか、あるいは大陸からの工人が制作したものかもしれないと推測されます。幅は約5～6cm、桁数は10桁以上、また年代的にこの唐組はループ操作法で組まれたと考えられます。

大宝衣服令にある礼服の綬も唐組で作成とされていますが実物は残っていません。貞観年間（859～877年）以



図1 唐組台

図3 唐組台上面

降には菱をいくつも並べた広幅の平緒が使用されるようになったとされています。したがってこの頃から唐組台が使用されたのではないかと考えられます。

「三代実録」(藤原時平著)の清和天皇貞観16年(874年)の検非違使規定の条にも「5位以上唐組、6位以下綺(かんばん)新羅組」の記述があります。

「平緒」と言う言葉の初見は「西宮記」(源高明著、914～983)で、ほかに「銚抄」(土御門道方著、1189～1239)、「江家次第」(大江匡房著、1041～1111)にも「平緒」の記録があります。

日本の美術 No.308「組紐」によると唐組台の図は、江戸時代の松平定信の平緒制作に関する巻物に「組臺の圖」として描かれています。この図では台の足は6本、中箱は無く、臺の下に台座が付いています。向縦9寸5分、前縦7寸、横8寸5分など寸法が入っていて、これは鯨尺では約36cm、27cm、32cmとなります。そして木釘の数が現在よりかなり多いようです。

## 唐組台で組んだ紐の特徴

菱が並び、品格の高い美しい組物である。

1菱ずつ組編めて行くので、かなり固い組物ができる。

伸縮性に乏しい。

制作に時間がかかる。

表裏が無い。つまりどちらを表にしても使うことができる。

## 唐組台で組む場合の注意点

手をきれいに洗ってから制作に入ること。

糸の動きは基本的に時計回りであるので、それに注意して組むこと。

仕上げるのに時間がかかるので、美しく保つように配慮すること。

木釘が腕にあたって痛い場合は、腕力パーカタールを唐組台の腕があたる所にかけて組むと良い。

## 唐組台による組み方と糸の準備

### (1) 糸拵え (いとこしらえ)

唐組平緒用の糸を紛糸(まがいと)と言います。紛糸は21中の生糸を52本二合(ふたご)にして104本を右撚りにしたものです。このように糸に撚りをかけ練りを施す作業を糸拵えと言います。この後、染色を行います。和染め(草木染め)の方が長持ちがし、虫がつきにくいとのこと。

### (2) 綜切り (へきり、経切り)

一般に、唐組部分は1.7倍、房部分は1.5倍の長さの糸が必要です。また両端の小菱部分は糸の動きが細かく重なりができるので、2倍の長さを必要とします。続き平緒の場合は出来上がりがだいたい255cmとして、全体としては約500cm以上の長さの糸を準備する必要があります。ただし、遺されている唐組平緒は約200cmのものが多いようです。

以下に8桁10菱の場合の総綜丈及び必要本数を示します。長さには余裕分も含めています。

1. 地糸 (8桁5菱分)	570cm	160本
2. 耳糸 (8桁1菱分)	570cm	32本
3. 耳糸小菱 (4菱分)	650cm	128本
4. 縦糸	520cm	16本

### (3) 糸つけ

半菱分ずつの糸(16本)の長さを揃え、別糸で2カ所括ります。括る位置は平緒の場合、房分を残すため、端から40cm位のところを括ります。その束数は10菱の場合は20束になります。2カ所括った間にタコ糸など強い糸を通し、向こう側に房分が行くようにし、唐組台の左右の枠に縛り付けます。房分は糸押さえに挟み込みます。横糸の代わりに現在は両端に穴のあいた金属の棒を用いることが多いです。それぞれ平玉に糸を巻き、丸台等のおもり玉に糸を巻き留めるのと同じに玉留めをします。この要領ですべての糸に平玉をつけます。

次に小菱、大菱の例(図4)の組み方を示します。

(4) 組み方 ここではサンプル用に糸を輪にして掛けた1菱の組み方を次頁に説明します。

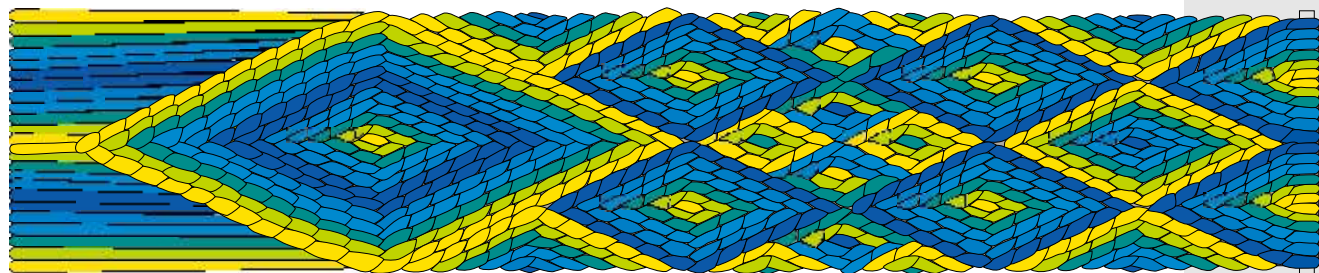


図4 小菱、大菱の例

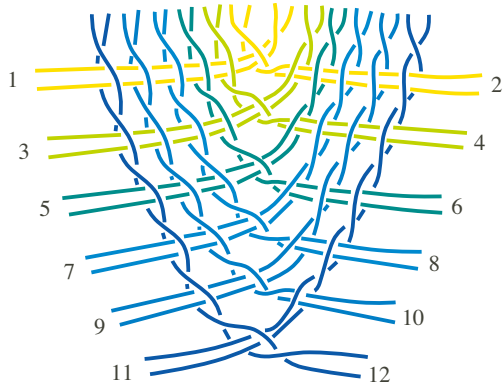
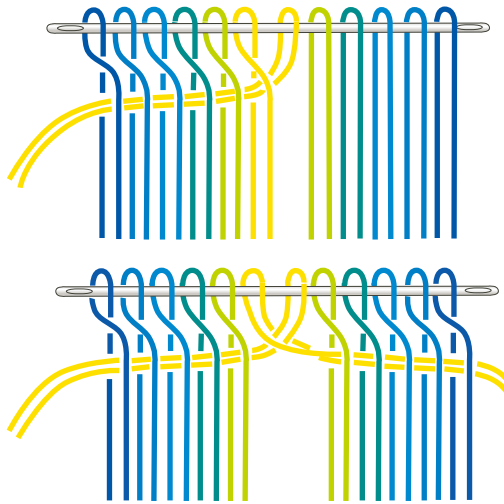


図5 下半菱の組み方

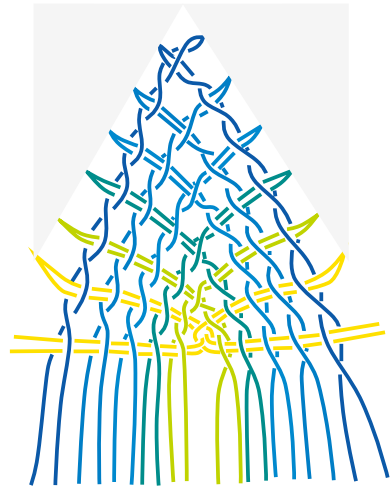
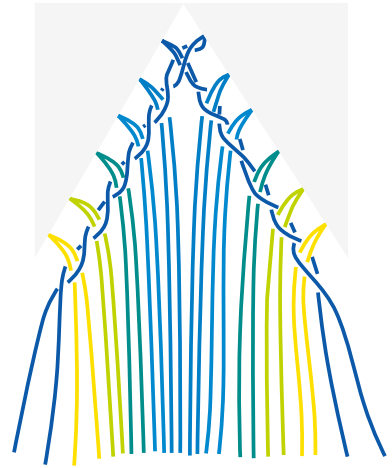


図8 上半菱の組み方

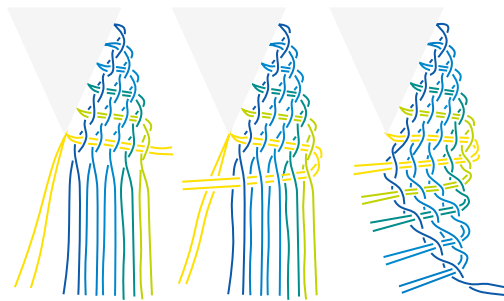


図6 右半菱の組み方

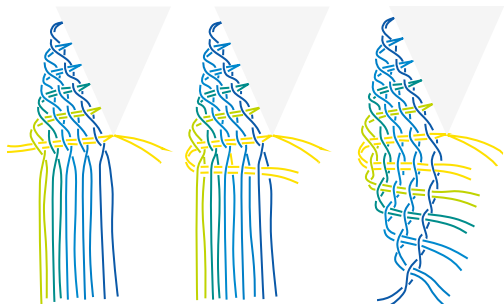


図7 左半菱の組み方

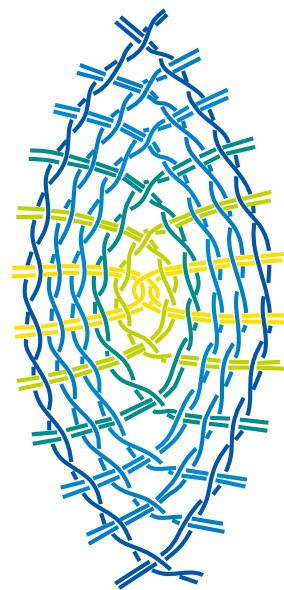


図9 1菱できあがったところ



## 第3回組紐国際会議「Braids 2016」



タコマ湾から見たレーニア山(標高4400m)

「Braids 2016」の実行委員長、ロビン・スパディとジョヴァンナ・インペリアからアナウンスがありました。

Braids 2016の会場は米国ワシントン州タコマにあるピュージェットサウンド大学です。この大学のキャンパスは、写真の様に伝統的な建物が並び、緑にも恵まれています。そして、この地域は米国でも最も美しい地域の一つで、徹底した自然保護地域です。また、シアトルやタコマの空港からも近く、ヨーロッパ、アジア、南北アメリカから簡単にアクセスできます。

Braids 2016はさまざまな講師がその才能と専門知識を披露する会議です。組紐、アンデス組紐、ループ組紐、タブレット織、バンド織り、スプリング、縁飾り、その他の幅の狭い織りのテクニックが公開され、学ぶ

ことができます。伝統的なものも、そしてまったく新しい現代的なものも提示されます。

Braids 2016は現在、これらの分野で指導して下さる人及び提案を募集しています。教えることにご興味がおありでしたら、直接(ジョヴァンナ・インペリアにご連絡ください [giovannaimperia@mac.com](mailto:giovannaimperia@mac.com))。また、会議のために奉仕活動をしてくださる場合もジョヴァンナにお問い合わせください。

前回の会議と同様に、私たちは公式記録集を出版します。それにはすべての講師やプレゼンターの資料が収録されます。

まもなく、私たちは会議にご興味のある方のために、詳細なプログラムを決定し、Facebookのページを作り、そこで最新情報などを公開して行きます。

### ■組紐と細織物国際会議「Braids 2016」

The Third International Braiding and Narrow Weaves Conference

■会期：2016年7月31日～8月6日

■場所：The University of Puget Sound, Tacoma, WA, USA

■実行委員長：Robyn Spady and Giovanna Imperia



会場のピュージェットサウンド大学キャンパス

## 新しい組紐の本



丸台と綾竹台の組紐の配色の本が発刊されました。丸台32種、綾竹台20種の組み方について、それぞれ5～8種の配色実例が美しいカラー写真で収録されています。一部の事例には、配色の図も付属します。

■書名：丸台と綾竹台の組紐 配色実例集

■著者：小嶋博子・岡本睦子

■体裁：B5版、60頁、フルカラー

■定価：2000円(税込)

■発行：2014年10月1日

■ISBN：9784925252324

本書の入手は著者までお問い合わせ下さい。





## ワークショップ報告

東京ワークショップ風景

### 京都ワークショップ

8月8日、京都工芸繊維大学で組紐・組物学会の京都ワークショップが開催されました。今回は「クテ打の組紐」、道具を使わず、指や手に糸のループを掛けて入れ替えて組む日本の古技法でした。講師は、春日弘子先生と角浦節子先生、ご参加の皆様たいへん熱心で、午前中にミサンガ、午後にネックレスを勉強しました。テクニックとしては簡単な蛇腹組と角組または重打で、初めての方も喜んでいただきました。2本に組み上がる所と1本になる所を効果的に組み合わせたミサンガとネックレスで、素敵な作品が出来上がりました。ご参加の皆様、ありがとうございました。



### 東京ワークショップ

9月13日、日本女子大学で組紐・組物学会の東京ワークショップが開催されました。今回は「固い素材で組む」、通常柔らかい素材を組むことが多い私達ですが、固いものにも挑戦しようと計画したものです。講師は、バスケットリ分野で活躍している岡安康子先生。素材として紙バンドを用い、バスケットリの技法で「組み小かご」を作りました。クリスマス仕様の脚付小かごで、縁の部分が立体的でたいへんかわいいものです。大小の2個セットですが、会場では小さい方のかごを仕上げました。ご参加の皆様、ありがとうございました。



## Jennie Parry 作品展と講演

英国の組紐作家 Jennie Parry 氏 (<http://jennieparry.co.uk>) が、英国在住織物作家金子まゆみ氏と東京で作品展を行います。Jennie Parry 氏は 2007 年の国際組紐会議でグランプリを受賞し、その作品は公式記録集の表紙を飾りました。高台による素晴らしい新しい組紐で知られていますが、今回は和紙の糸を用いた作品を展示するそうです。また、11月8日の本学会東京ワークショップで講演があります。

■主題：Paper Rhythms—和紙糸その変幻 Weave and Braid -

■会期：2014年10月21日(火)～11月2日(日)  
11:00am～7:00pm(但し10月25日(土)と11月2日(日)は11:00am～4:00pm 月曜休)

<http://paperhythms.wordpress.com/exhibition/>

■会場：神楽坂 光鱗亭ギャラリー

■住所：〒162-0805 東京都新宿区矢来町 41

■電話：03-6265-0630

■講演：Jennie Parry レクチャー

■日時：11月8日東京ワークショップの会場で Jennie Parry 講演会があります。ワークショップは多田牧子が「Lacy Kumihimo」を行います。Jennie Parry の講演は午前中の予定です。

■時間：10：30～4：00

■会場：日本女子大学 80年館 5階 被服学科物理学実験室

■住所：東京都文京区目白台 2-8-1

## 第5回組物検定 京都

第5回の組物検定試験は2014年12月13～14日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1, 2, 3, 4, 5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。クテ打：「秘伝系組」「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法（基礎技法）現存指操作技法（3基本組紐）

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。

クテ打：「秘伝系組」「真野家伝故實系組手附」から復元された手操作技法（基礎技法）から少しはみ出した基礎技法（鎌倉時代の遺品に用いられている技法）

なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

綾竹台作品3本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

高台1枚物作品3本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：クテ打上級、高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。

クテ打：「クテ打組紐技法入門編 3基本組紐の組み方」、「クテ打組紐技法入門編 2 基礎技法」

「クテ打組紐技法入門編 3 追加基礎技法」、「クテ打組紐技法 連結技法」

なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品3本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

昨年度は1・2・3・4級で、各級とも筆記と実技の試験が行われ、12名の方が受験しました。

筆記試験は獲得点数により判定します。昨年度の合格ラインは4級が80点（平均76点）、3級が70点（平均78点）、2級が70点（平均73点）、1級は80点（平均86点）でした。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さに組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

受験を希望する方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で学会事務局までお送り下さい。受験料は7350円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院伝統文化教育研究センター内  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844、E-mail: inoda@kit.ac.jp



第4回の組紐検定試験

## ワークショップ 京都 2014-2015

- 第3回ワークショップ&レクチャー  
10月10日(金) 10:00～16:00 「検定対応」 廣澤徳三郎・小嶋博子・多田牧子
- 10月11日(土) 9:00～12:00 検定対応レクチャー
- 第4回ワークショップ&レクチャー  
12月12日(金) ワークショップ 10:00～16:00  
「検定直前ワークショップ&レクチャー」 多田牧子
- 第5回ワークショップ&レクチャー (2015年)  
2月13日(土) ワークショップ 10:00～16:00  
「筒状唐紐」 岡本睦子
- 2月14日(日) レクチャー 9:00～12:00 多田牧子

## ワークショップ 東京 2014-2015

- 第4回ワークショップ  
11月15日 10:30～16:00 レクチャー Jennie Parry  
ワークショップ「Lacy Kumihimo」 多田牧子
  - 第5回ワークショップ (2015年)  
1月10日 10:30～16:00 ワークショップ  
「クテ打の組紐」 亀井三枝子
  - 第6回ワークショップ (2015年)  
3月14日 10:30～16:00 ワークショップ  
「ボビンレース」 鮫島順子
- ワークショップの予定は変更されることがありますので、学会のホームページで最新情報をご確認下さい。



組紐・組物学会  
The Kumihimo Society

### 役員

- 会長  
魚住忠司：村田機械(株)
- 副会長  
仲井朝美：岐阜大学工学部  
小嶋博子：組紐研究者
- 理事  
荒川光久：全国くみひも教材センター  
上田隆久：日本ビラー(株)  
大谷章夫：岐阜大学工学部  
北村雅之：北陸ファイバークラス(株)  
倉谷泰成：(株)カドコーポレーション  
多田眞作：(株)テキスト  
多田牧子：組紐研究者  
寺本 靖：(有)寺本文化財工芸社  
濱田泰以：京都工芸繊維大学  
濱中知子：ハマナカ(株)  
廣澤浩一：三重県組紐協同組合顧問  
圓井 良：圓井繊維機械(株)  
渡辺一生：渡敬(株)

### 事務局

猪田宮子：京都工芸繊維大学

## 組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院  
伝統みらい教育研究センター内  
〒606-8585  
京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
Tel/Fax: (075)724-7844  
E-mail: inoda@kit.ac.jp  
<http://www.kumihimo-society.org>  
ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらにお願いします。

